

第195回（令和元年7月14日施行）

1 級原価計算・工業簿記

第1問 従来通り「原価計算基準」の内容から出題しました。単に「原価計算基準」を丸暗記するのではなく、原価の特殊原価調査の概念や、原価差異の算定等の基本的な手続も理解するよう努めてください。

1. 「原価計算基準」における原価計算制度の目的を問うています。「原価計算基準」は特殊原価調査は対象外であることを認識しておいてください。
2. 利子の原価性に関する文章です。資金利子は製品の原価を構成しないことを理解しておいてください。
3. 連産品に関する問題です。連産品と副産物の違いをしっかりと理解しておいてください。
4. 仕損に関する問題です。仕損が補修によって回復できる場合は、補修指図書を発行して原価を集計します。
5. 標準原価に関する問題です。標準原価を勘定組織に組み入れることによって、記帳の簡略化と迅速化の効果が期待されます。また、各原価要素の標準は、物量標準と価格標準の両面によって算定されます。

第2問 製造業における仕訳の問題です。すべて過去問題を参考に出題しています。

1. 工場消耗品の消費額に関する問題です。棚卸計算法の基本的構造を理解しているかを問うています。 $\text{月初棚卸高} \text{ ¥}345,000 + \text{当月購入高} \text{ ¥}1,324,000 - \text{月末棚卸高} \text{ ¥}309,000 = \text{¥}1,360,000$ になります。
2. 外注加工賃の基本的な計算方法を問うています。 $\text{当月支払額} \text{ ¥}503,000 + \text{当月末未払額} \text{ ¥}39,600 - \text{前月末未払額} \text{ ¥}46,500 = \text{¥}496,100$ になります。
3. 作業くずの処理を問う控除する仕訳です。評価額を仕掛品勘定から控除します。
4. 未払賃金給料の処理に関する問題です。
5. 組別総合原価計算における賃金給料の仕訳の問題です。
6. 売上返品が行われた際の基本的な仕訳になります。

第3問 製造間接費の部門別計算に関する問題です。特に直接配賦法の計算構造をしっかりと理解できているかがカギになります。

まず、第1次集計について、適切な配賦基準を選択したうえで計算を始めます。配賦基準は、建物減価償却費が占有面積、厚生費が従業員数となります。これに基づいて配賦率を計算すると、建物減価償却費は $8,000 \text{ 千円} / 2,500 \text{ m}^2 = 3.2$ 、厚生費は $5,600 \text{ 千円} / 70 \text{ 人} = 80$ となります。これによる各部門への配賦額は下記の通り。

建物減価償却費

切削部：900 m²×3.2=2,880 千円
組立部：850 m²×3.2=2,720 千円
動力部：300 m²×3.2=960 千円
修繕部：250 m²×3.2=800 千円
事務部：200 m²×3.2=640 千円

厚生費

切削部：25 人×80=2,000 千円
組立部：25 人×80=2,000 千円
動力部：8 人×80=640 千円
修繕部：5 人×80=400 千円
事務部：7 人×80=560 千円

次に第2次集計ですが、ここで重要になってくるのが製造部門と補助部門の区別です。この場合、直接的に製造加工に携わる切削部と組立部が製造部門であり、それ以外の動力部、修繕部、事務部が補助部門になります。第1次集計後のこれら補助部門費を製造部門に配賦することになり、配賦基準は動力部費が消費電力量、修繕部費が修繕時間、事務部費が従業員数になります。

ここで注意しなければならないのが、設問上、直接配賦法が指定されていることです。直接配賦法は補助部門間の用役の授受を無視して計算するため、配賦率の計算の分母になる数値は切削部と組立部の数値の合計になります。そのため、修繕部の動力部への50時間というサービス提供は計算上、無視してかまいません。配賦率は事務部費が3,400千円/50人=68、修繕部費が4,000千円/200時間=20、動力部費が4,800千円/600kwh=8となります。これに基づいて第2次集計額を計算すると下記の通り。

事務部費

切削部：25 人×68=1,700 千円
組立部：25 人×68=1,700 千円

修繕部費

切削部：125 時間×20=2,500 千円
組立部：75 時間×20=1,500 千円

動力部費

切削部：360kwh×8=2,880 千円
組立部：240kwh×8=1,920 千円

最終的な配賦額は、切削部が18,760千円、組立部が14,840千円になります。

第4問

本問は、工程別総合原価計算を採用している場合の勘定の記入および工程別総合原価計算表の作成の問題です。また、第1工程の完了品の一部が半製品として外部に販売されるという仮定も設定しています。月末仕掛品の評価方法については平均法のみを問うていますが、売上原価の計算に関しては先入先出法を問うています。設問でどの方法が問われているかを注意して解答してください。類似の問題が過去にも複数出題されておりますので、条件の違いによる結果の違いなども併せて学習してみると良いかと思えます。